

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	R8年 1月 6日		～ R8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	R8年 1月 6日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	R8年 1月 6日		～ R8年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で介入しており、言語聴覚士・作業療法士それぞれの専門的視点で支援を行っている。	検査結果などを共有し、専門的な視点での助言ができるよう努めている。 訪問前後に訪問支援員同士はもちろん、事業所スタッフ全員で情報共有を行い、必要な支援について検討している。	今後も支援の質向上のため、研修・講習会への参加を行い、周知研修の機会を作っていく。
2	関係機関との連携ができるようにしている。	自事業所のみでなく、併用事業所や相談支援事業所とも情報共有の機会を作り、統一した支援が行えるようにしている。	自事業所の見学を受け入れ、情報共有の機会を作っていく。
3	訪問先・保護者からの聞き取りや話し合いを行い、情報提供ができるようにしている。	訪問前に保護者のニーズを確認し、訪問時の様子だけでなく、家庭での困りごとについても共有し、家庭でできる取り組みの提案を行っている。 訪問先でも普段の様子をお聞きし、園や学校で行える取り組みについて情報提供を行っている。	定期的な訪問や連絡を行い、ニーズの把握ができるようにしていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先の環境に合わせた取り組みの提案	療育で行っている支援の目的を理解していただいた上での訪問先での取り組みの提案が不十分であった。	療育で行っている支援の目的を具体的に伝え、支援内容について動画等用いて分かりやすく説明する。 訪問先の環境に合わせた取り組みについて提案できるよう工夫していく。
2	情報共有の時間や機会が少ない訪問先があった	訪問先の受け入れ状況や時間の制約があり、訪問時のみでの情報共有が難しい場合があった。	必要に応じて訪問日以外でも情報共有ができるような機会を作り、訪問先の事業所見学の機会を作っていく。